新御番衆番

四

内閣文庫	
番號	和 32569
册數	394(218)
函號	152 / 121

内閣文庫
和書 類
號 三二五六九
册 三九二
一五二函 一二一架

国立公文書館
National Archives of Japan

安永二巳年七月十七日

新御番小笠原縫殿助組 六百石 岩手藤左衛門信方養子 大御番松浦出雲守組 岩手清蔵信安

安永五申年四月日光の御ともにもくはゝる

天明七未年八月三日辞入宮城久三郎支配

寛政四子年七月廿一日麻布にて火災

此て裏四番町の邸類火にかゝる

寛政七卯年十二月廿九日致仕

寛政八辰年三月十二日髪を剃て篤水と云

安永二巳年七月十七日

太田織部判資忠子

大御番松浦出雲守組

新御番小笠原縫殿助組

五百石　太田広十郎義資

安永二巳年十二月廿七日番入久世平九郎支配

安永六酉年二月十日大御番本多

淡路守組ゟ入

安永二巳年七月十七日

山岸伝之丞時睦惣領

大御番稲垣長門守組

新御番小笠原縫殿助組　四百俵　山岸十郎兵衛時習

安永四未年閏十二月廿六日番入戸川山城守支配

天明二寅年四月廿二日新御番

仙石次兵衛組ニ入

安永三午年八月九日

曲渕助右衛門京傳末子

西丸御納戸

新御番小笠原縫殿助組

二百俵　曲渕助右衛門勝義

安永九子年十二月十日死四十九歳

安永三午年五月九日

阪室与三兵衛昌藏惣領
大御番永井伊豫守組

新御番小笠原縫殿助組　三百石　阪室仙太郎昌詳

同年十月十二日大的御競の射手ニ列して時服二ッ拝領

安永五申年二月九日吹上廣芝ニおゐて笠懸御覧ありて羅紗一反綸子一反ッゝ拝領

同年四月日光の御供ニ被召連候ニ付蝋燭料として金二千疋を拝領此月十二日江戸を立十七日御祭礼拝見

大猷廟へ詣てさせのつとめ御前番を
勤め同日済礼を上け廿一日帰家
安永五申年十一月晦日死二十七歳

安永三午年五月九日
新御番小笠原縫殿助組　三百八俵　加藤助之丞則親
加藤助左衛門則當順
大御番高木主水正組
安永四未年五月三日囚物御覧の射手
ニ列して賜物二反を給ふ
安永五申年四月日光の御供に随へハ
路金二千疋を給ふ
安永六酉年十月廿六日囚物御覧の
射手に列し〳〵し賜物二反を給ふ
安永七戌年二月四日大的御覧の射手ニ

列して時候ニて終る
安永八亥年五月朔日中黒ニて半的
御覧有之て諸物一又ニて終る
天明二寅年三月十六日備射式御覧
有之て手繰ニて終る但明の十七日宮中
ゟ正ニ見て時候ニて終る
天明三卯年九月朔日円物御覧有て
諸物又ニて終る
天明四辰年九月晦日大的御覧の射手
ゟ列して時候ニて終る
寛政二戌年九月廿三日大的御覧有て
時候ニて終る

寛政四子年三月廿六日大的御覧有て
時候ニて終る
文化元子年十二月十二日新御書組頭

安永三午年五月九日

小長谷伊豫守時與妾子
小普請組牧野備後守支配

新井清書小普請家継嫡願組

再之助
三百四十俵
小長谷權九郎時雄

安永三午年十二月九日小普請入因つ入奥田美濃守支配

同日評定所に於て書子甚四郎
時文不行跡なりとて教訓を加へ候を
時文ハ實母ハ實父の妾なりし下女と
如し時文を小弱屋ニ追籠おき
けり之へ大小を渡す次第とし候

こゝろして人の親ニして一しほ教
育ありの道ニあつく次ハて小姓組ニ
入られ明つまつて小野日向守ニ在
へ係へをりと
安永四未年三月廿日閉門を免され
なにと籠居の事とうつるひしに
同年同月廿五日御番遠慮ヲ恐れ格を
命ぜられ五月廿八日免さる
天明二寅年正月三日務めを免されて
年始ニ出仕す
天明二寅年九月十六日死 六十五歳

安永四未年十二月廿七日
松下石見守宣清養子
本用番松浦出雲守組
新御番小姓組より継目組
三百俵 松下伊賀守宣質
安永五申年四月日光の御法会ニ随ひハ
姓名合あり 辛 に…
安永九子年九月廿四日大的御覧の
射手ニ列し時服二つを賜ハる
天明二寅年七月六日務入 水野大隅守組
天明六午年七月十六日小田向中の
稽古の那ニ出仕ありしハ同月廿五日

金拾両を賜し給之
寛政九巳年七月廿八日致仕

安永四未年十二月廿七日
新御番小笠原縫殿助組
根岸七郎右衛門清忠嫡
大御番安部川紀伊守組
四百俵 根岸主計忠貞
安永五申年四月日光の御法会に随ひ
り毛しハ姓差金 三枚 下賜る
同年十二月十日騎射御覧ありて
明の十二日営中に召されて黄金 二枚
下給る
文化四卯年七月九日老辞賜黄金 二枚 入八木
十三両支配

安永五申年十二月十七日

将監三郎右衛門長寛惣領
御腰物方

新御番小笠原縫殿助組 二百俵 将監熊之丞長英
改 三郎兵衛

同日務のうち五十俵を足し給ひ
御料とせらる

同年四月日光の御法会に隨ひ八代基
金五両を給ふ

天明二寅年十二月同日大的御覧の
射手に列して時服二を給ふ

天明五巳年九月廿八日大的御覧に

射手に加られて時後ニ之を務む
天明七未年三月七日今年御儀式
のことの高田馬場において大的御覧
有て羅紗一反縮緬一反これを給ハる
寛政元酉年五月八日實方の従弟
安藤助右衛門獄屋において年来之ハ御前において
出る事を止められ十二月二日助右衛門
追放らるゝ之ハ籠居におよはすと
仰出さる
寛政四子年四月廿一日[illegible]術[illegible]術
御覧ありて褒物二反これを給る
寛政五丑年十二月五日東下川の追

御放鷹の時御供之を務む
寛政九巳年三月廿五日大的御覧の
射手に列して時後ニ之を給ハる
寛政九巳年四月朔日新御番組頭
文化元子年十二月九日辞入佐藤管理
支配
文化二丑年十月廿四日致仕

安永五申年二月十七日

新番小笠原縫殿助組

伊丹権太夫康命惣子

西丸御腰物方

二百俵　伊丹理右衛門康求

後三百石　内百俵　改権大夫

同年四月日光の御供よ志てこれ

安永九子年三月六日談目三百石を近

の二百俵はうつし奉る

寛政九巳年六月十八日死　六十二歳

安永五申年二月十七日

遠山源左衛門忠敬嫡子
大御番安福組長門守組

新御番小笠原縫殿助組

二百三十石　遠山内匠忠敏

安永五申年六月廿三日死　四十二歳

安永五申年二月十七日

浅井左衛門元記二男惣領
大御番大久保主膳正明十組

新御番小笠原縫殿助組　二百十俵　浅井金之丞元方

同日番入ニ付三十俵を足しおよ
仰付らる

同年四月日光の御供ニまうてさるゝハ
淋春合三十毎を下し給ふ

安永七戌年三月八日騎射御覧
あるとて諸物ニ及を給ふ

二月十七日右養父より明ケ
安永五申年二月廿三日

新番小笠原縫殿助組

河野孫兵衛通古惣領
大御番安藤平多治郎組

二百俵 河野傳之丞通積

同日禄のうち五十俵を足し給ふ
御足たる

同年同月日光の御供に従ふ

天明六午年十二月廿七日死六十二歳

安永八亥年四月十六日

新御番松平但馬守組

深津八左衛門忠賢惣領

西丸新御番松平但馬守組

百五十俵

深津八十九郎忠英

後八左衛門

天明元丑年四月廿六日西丸新組新御番松平

但馬守組

安永八亥年四月十六日

新御番沼田弾正組

野田三左衛門政武惣領

西丸新御番牧野式部組

百俵二口 野田源右衛門政満

天明元丑年四月廿六日西丸（新組）新御番松平大隅守組

安永八亥年四月十六日

新御番池田弾正組

加藤源次郎兵衛忠江子

西丸新御番松平組ゟ当組

三百俵　加藤八郎九郎安尚

安永九子年五月廿九日死五十六歳

安永八亥年四月十六日

梶源蔵正備忠良子

西丸新御番松平但馬守組

新御番蒔田淳正組

二百俵　梶久四郎勝嘉

天明元丑年四月廿六日西丸引組新御番松平

但馬守組

天明元丑年七月六日

小池左門義堯嫡子
小十人松平主馬組

新御書院永見伊豫守組　二百俵　小池重蔵義締

同日御切米三十俵を足し高
仰せ付らる

寛政元酉年十月二日大的御覧の
射手に列して時服二を給る

文化元子年十一月十日辞入小普請若狭守
支配

文化二丑年七月廿五日致仕

天明元丑年七月六日

唐系八番ニ新出願
小十人寛政九年番組

新井山書ニ永見伊豫守組 二百石高 唐系七番清林学

寛政九巳年十二月五日拝入山口ニ勤番清支配

寛政十一未年二月廿一日死 六十四歳

七月六日右病不出仕
天明元丑年九月二日

新御番永見伊豫守組

伊丹右京亮勝興惣領
大御番松浦出雲守組

二百俵　伊丹弥三郎勝範

天明六午年十月十三日婿入長谷川利十郎支配
天明七未年六月十五日嗣子段之助
儀成出奔三月廿二日立廻りしに
押籠置候様仰出され五月十日
囲に被置しか　この八月廿一日籠居すへ
しと仰出され　七月十日免され
寛政元酉年七月廿一日致仕

寛政十午年八月廿二日髪を剃りて
静山と云

天明七未年十二月廿四日

新御番永見伊豫守組

井上吉之丞利高二男無願
元方御納戸
六百石　井上多門利貞

寛政二戌年九月廿二日大的御覧の
射手に列して時服二を拝領
寛政五丑年九月十二日種田流鎗術
御覧ありて褒物二反を拝領
寛政七卯年九月廿八日大的御覧の
射手ニ列して時服二を拝領

天明七未年三月廿四日

大井理左衛門昌明惣領

元方御納戸

新御番永見伊豫守組　二百俵　大井広九郎昌虎

寛政二戌年九月十四日死　三十三歳

天明七未年三月廿四日

丸毛文平賢利惣領

御膳物方

百俵 丸毛甚三郎利豊

後百俵十口

新御番永見伊豫守組

同日勤のうち百五十俵足し高被

仰付之

寛政元酉年十一月廿六日跡目百俵十口

是迄の百俵ハこれへ入しなりて勤のうち

百俵足し高被 仰付之

寛政九巳年九月三日

一橋中納言治済卿物頭

寛政十一未年十二月
民部卿齊敦卿へ属せらる
文化三寅年十二月十六日御[illegible]
文化九申年三月八日西城の小十人組
文化十酉年　月　日死七十二歳

天明七未年十二月廿四日
新御番永見伊豫守組
建部平之助賢明嫡子
大御番栢木和泉守組
二百俵　建部左金吾賀政
同日禄のうち五十俵を足しおかれ[illegible]と
ござる
同年十二月二日御射術御覧有て明る
三日営中に召されて黄金二枚を給ふ
天明八申年二月十二日大的の御覧の
射手に候して時服二を給ふ
寛政元酉年十月三日大的の御覧の

射手之列して時服二つ拝領
寛政二戌年九月廿三日大的御覧の
射手小儀して時服二つ拝領
寛政五丑年五月三日　住所死　四十二歳

天明七未年三月廿四日
長田次左衛門芳安惣領
大御番永井信濃守組
四百石　長田金左衛門正辰
内二百俵
新御番永見伊豫守組
天明七未年八月二日番入永井監物支配
寛政元酉年四月廿二日致仕
これ后息男彦十郎正喜駿府城の
勤番を命ぜらるにはかしこへ行
て
寛政十午年五月十四日駿府の郭中
河内屋浦にて死す五十一歳

正辰の骸を府中の寺町安立寺に
送る

寛政二戌年八月廿七日
小林次郎左衛門正識惣領
新御番松田相模守組
新御番末吉肥後守組
三百俵　小林十右衛門正純
寛政五丑年三月七日大的御覧の
射手に列して時服二を給ひ
寛政七卯年九月廿八日大的御覧の
射手に加りて時服二を給ひ
寛政九巳年三月八日西丸新御番酒井近江守
組

国立公文書館
National Archives of Japan

寛政二戌年八月廿九日
松下半六郎長儀惣領子
新井備前松田出後守組
新井備前末吉肥後守組 六百石 松下清九郎之亭
寛政三亥年八月十四日老辞賜黄金二枚入坪内
式部支配
寛政五丑年十月廿五日死七十三歳

寛政二戌年八月廿九日

伊東六郎兵衛跡相続願
新御番松田相模守組

新御番末吉肥後守組

百俵
後二百俵　伊東政十郎惟弘
改生九歳

寛政五丑年十月七日跡目二百俵被下
うち五十俵を足し拾ハ足高の百俵ハ
うへし東記

寛政六寅年八月廿六日御小納戸
同年十二月十六日布衣着を免さ記
寛政七卯年二月五日小納戸御持の
時御供ヲ随ふ

寛政十二申年十二月廿二日御小納戸
より二丸御留守居
文化四卯年　月　日死四十九歳

寛政二戌年八月廿九日
新御番末吉肥後守組
山本権十郎正識惣領
新御番松田和泉守組
二百五十俵　山本忠兵衛正邦
寛政九巳年三月八日西丸新組新御番酒井
近江守組

寛政二戌年八月廿九日

芦澤組頭次席芦澤清吉子

新御番松田相模守組

新御番末吉肥後守組　三百石　芦澤弘衛門義孫

寛政三亥年七月廿四日番入遠藤左京支配

寛政九巳年十二月廿三日新御番曲淵和泉守組ニ入

寛政三亥年四月七日

新番高木右肥後守組

根本伊織定盛末子

新番土屋数馬組

百五十俵
五口

根本大八郎成貞

寛政四子年正二月廿七日老禅賜黄金二枚入

浅野佐渡守支配

同年四月四日死七十歳

寛政三亥年四月七日

牛奥庄左衛門昌連惣領

新井安藝数馬組

新井肥後守組　二百五十俵　牛奥庄三郎昌似

寛政七卯年八月晦日辞入阿部大学支配

寛政八辰年八月十四日致仕

寛政三亥年四月七日

小野叡右衛門豊之忠子
新番安房数馬組

新番常末右肥後守組　四百俵　小野次郎兵衛高純

寛政九巳年十二月八日西丸新組新番松平伯之允組

寛政三亥年四月七日

上野平三郎秀明養子

新御番堀数馬組

新御番末吉肥後守組 百俵高 上野平右衛門秀豊

後八郎

寛政六寅年四月廿六日婿入浅野佐渡守支配

寛政八辰年七月十六日死五十五歳

寛政四子年五月十一日

宝暦四戌年十二月四日家督

新御番東条肥後守組

青木傳三郎清道惣領

奥御右筆

百五十俵　青木記三郎清次

寛政九巳年十月廿四日死　四十六歳

五月晦日ゟ病不出仕
寛政四子年六月廿四日

石野平次郎庶次男願
御納戸

新御番末吉肥後守組
三百石　石野七郎兵衛義祐

寛政六寅年四月廿六日辞入石河土佐守支配
寛政九巳年十二月廿八日致仕

寛政五丑年十二月廿日

関伝右衛門義標惣領
小十人竹田左十郎組

新番頭末吉肥後守組　百五十石　関　傳蔵傳義
内五十俵

同日勢のうち百俵を足しおふ
御を家督

寛政六寅年九月廿六日大的御覧
の射手ニ出候して時服二を拝領

同年十月八日笠懸御覧ありて
文紗一反縞紬一反様当一五ニを拝領

寛政七卯年九月廿八日大的御覧の

射手ニ加りニ付て時服二ツ被下之
寛政八辰年正月廿一日御弓場始の
射手不候して時服二ツ被下同
月廿二日営中にて弓射して黄金二枚を
被下
寛政十午年三月十四日大的御覧
の射手ニ加りニ付て時服二ツ被下
寛政十一未年五月廿二日御小納戸
同年十二月廿日布衣着を免さる

寛政五丑年十二月廿四日右病不出仕

寛政六寅年十二月八日

平野岩之丞勝彰嫡子

大御番本多肥後守組

新御番末吉肥後守組

同僚　平野泳之丞定毅

寛政六寅年六月廿七日

小俣七郎右衛門敬明惣領

大御番安藤若狭守組

新御番末吉能登守組　四百俵　小俣松三郎恒房

改七郎右衛門

享和二戌年二月廿三日大的御覧の

射手に列して時服二ツ拝領

六月廿七日右病不出候

寛政六寅年六月廿九日

深田家養嗣清武忠願

大御番白須甲斐守組

新御番木原肥後守組

六百俵　深田数馬清在

改　養嗣

寛政九巳年十二月廿五日大的御覧の
射手に列して時服二を拝領

享和三亥年十二月十六日大的御覧の
射手に加りて時服二を拝領

文化二丑年十月廿五日大的御覧の
射手に撰して時服二を拝領

文化五辰年十二月廿七日辞入八木十三両支配

寛政六寅年十二月廿六日
内田主平四男無順

新御番高尾孫兵衛組　五百石　御納戸
内田槌之助正忠
改　主平

寛政十二申年九月晦日大的御覧の
射手に列りし時服二つ給ふ

寛政七卯年八月廿九日

金田文之丞正友嫡子[?]

元清水中納言殿勤仕之者[?]

明和二酉年三月七日跡目

新御番高尾孫兵衛組　二百石　金田八郎右衛門正統

正統父ヵ跡を嗣て后
清水御館の近習番と成て[?]更ニ又
小姓ニ進ミ又小十人頭ニ移り同所
勤仕之者[?]を経て物頭格[?]
清水殿逝去ニ依て一統御本丸へ召
返されし時新御番ニ入

寛政九巳年十二月廿三日

久留為之丞正義次男

小普請組仙石弥兵衛支配

新御番室賀兵書組 再勤 二百俵 久留喜之助正隆

同日禄のうち五十俵を足し給ふよし仰をかうふる

寛政十二申年九月晦日大的御覧の射手に候して時服二を給ふ

文化六巳年十月二日大的御覧の射手に加りて時服二を給ふ

寛政九巳年十二月廿三日

小林次左衛門光伴惣領
小普請組佐野肥前守支配

新御番室賀山城守組 再勤 四百石 小林吉之助春英

寛政十一未年十二月八日辞入戸田中務大輔支配

文化四卯年七月廿九日致仕

寛政九巳年十二月廿三日

石丸目結之亟嫡孫兼祖

小普請組佐野兆和守支配

新御書院番組 丑ノ勤

二百四十八石 平米五斗

石丸元之亟定廣

改 吉左衛門

文化六巳年十二月五日 辞入

寛政九巳年十二月廿二日

逸見八左衛門忠恕惣領

小普請組佐野豊前守支配

新御番室賀図書組 再勤 二百俵 逸見保次郎光利

寛政十一未年六月廿二日死 四十歳

寛政十午年三月十二日

新御番室賀[illegible]組　松平与市郎忠昌忠子

大御番市橋下総守組

二百俵　松平与市郎忠寿

同日跡目のうち五十俵を足し被下

作之高[illegible]

寛政十午年三月十三日

新御番室賀兵庫組

依原三千郎忠順
大御番市橋下総守組

七十俵 依原吉五郎義行
後七十俵七口

同日替りうち百八十俵を足し高ニ而
御役を勤る

同年十二月廿七日源同七十俵七口相続の
うち百十五俵を足し高ニ而御役を勤る
是迄の七十俵ハ返し 勤家

寛政十一未年九月廿六日大的御沙汰
ニ射手格別して時服二を給る

享和二戌年十二月廿三日大的御覧の
射手に候して時服二ツ拝領
文化二丑年十月廿五日大的御覧之
射手に加り候て時服二ツ拝領
文化三寅年四月十八日存命之時着死罪

二月十三日右病不出仕
寛政十午年五月廿五日
新御番室賀兵庫頭組
大河原権兵衛正邑惣領
大御番新庄越後守組
三百五十俵　大河原権之丞正直
寛政十一未年九月廿六日大的御覧の
射手ニ加リ候て時服二ツ拝領

寛政十午年十月十六日

新御書室賀照書録

坂部新助智信惣領子
小普請組佐野肥前守支配
元大坂御蔵奉行
二百俵
坂部傳十郎信興

寛政十二申年九月十三日

新御番久永主税組

小坂倉次郎雄税惣領

御納戸

千石　小坂甲次郎雄傑

享和元酉年十月晦日

新御番室賀兵庫組

恒景山下帯刀資光末子
大御番安藤伊賀守組
又右衛門 恒景 源氏滿資懿（ヨシ）

文化四卯年三月廿日大的御覧乃
射手に列して時復二ヶ所中

享和元酉年十月晦日
安永四未年五月十日済目
新御番室賀出書組
間宮十左衛門信尹惣領
甲府勤番滝川長門守支配
四百俵　間宮十左衛門信憑
文化二丑年四月廿六日内存流御沙汰
御沙汰有て隠居被仰付候
文化八未年六月廿九日御入奥田主馬支配

享和元酉年十月晦日

須田長門盛行惣領
小普請組松平越後守支配

新御書院番組 再勤 二百俵 須田新左衛門盛経

文化四卯年八月九日大川向ニ而
馬乃渡し御覧有て同月十二日
営中ニ而召出されて黄金二枚を給ふ

文化元子年十月二日

新御番久永主税組

水野宇兵衛忠固惣領

御納戸

二百俵 水野安之丞忠順

改 新兵衛

同日禄のうち五十俵を足しめ

御[illegible]

文化元子年十月二日

山村新右衛門季雄末子
小十人日根九郎左衛門組

新御番久永主税組

三百石　北村長左衛門季惟

文化二丑年十月廿五日大的御褒美
射手ニ列して時服二ツ拝領
文化四卯年十二月四日草鹿御褒美有て
端物二ツ拝領
文化五辰年三月廿一日大的御褒美の
射手ニ列して時服二ツ拝領
文化七午年十月廿九日大的御褒美

射手に列して時服二ツ被下之
文化八未年十二月六日小松川邊へ
御放鷹の時御供被仰付候して鳥射
留同月八日営中ニ而召出て時服二
ツ被下之
文化十三子年三月十日大的御覧被
射手ニ列して時服二ツ被下之

文化二丑年十二月十日

野邊権太衛門正備無願

大御番高木主水正組

新御番久永主税組　同居　野邊太郎衛門正名

文化六巳年五月晦日辞入迫度登之助支配

文化二丑年十二月十日

新御番久永主税組

細田播右衛門康成嫡子

西丸小十人天野弥五右衛門組

二百石　細田九膳康直

改 嘉右衛門

文化五辰年三月廿二日大的御弓の

射手に列して時服二を給ふ

文化十三子年三月十日大的御弓の

射手に列して時服二を給ふ

文化二丑年十二月十日

新御番久永主税組　百俵　内藤右膳政次

内藤十次郎四男養子
西丸小十人荒井十兵衛組

同日勤役中うち百五十俵を足し
[illegible]

文化五辰年十二月廿七日老衰ニ付小濱長五郎
支配

文化三寅年十二月廿一日

加々爪三宮弥左衛門惣領

新御番久永主税組

大御番建部内匠頭組

又右　加々爪金右衛門遠芳

文化三寅年十二月廿一日

山中殿支配御通照願
小ヶ谷馬平殿組

新井書久永主税組

堤条吉　山中権蔵信標

同日勢のうち二十俵宛を足し給ス
御とゝ成りと

文化四卯年　月　日死四十四歳

文化五辰年四月十六日

新井嘉久永三郎殿

都筑小三郎正武惣領

小十人組同井坂次左衛門組

現米八十石　都筑吉次郎正路

同日惣領うち並のおとく是迄

の通被仰付之旨

文化五辰年十二月廿七日

新番久永主税組

岡田左京亮若慶二男
大御番本多周防守組
二百石　岡田助左衛門正澄

同日勤仕並より五十俵を足高ニ
仰せつけらる

文化五辰年十二月廿七日
丸山斧之亟跡役仍而父相続
西丸小十人久保田十左衛門組
新御番久永主税組
現米八石 丸山利右衛門政吉
同日廩米のうち二百五十俵の高に足し
すての御役料を賜る
文化十四年十二月十二日御小納戸
同年同月十六日布衣着を免さる

国立公文書館
National Archives of Japan